令和6年度 第3回 学校運営協議会議事録

校名	府立 四條畷高等学校
(准)校長名	稲葉 剛

開催日時	令和7年2月12日(水) 15:30~17:00
開催場所	大会議室(東館2F)
出席者(委員)	田中保和会長 鉄寿広委員 伊藤陽子委員
	梅田和子委員 阪口葉子委員 串田ゆか委員
出席者(学校)	稲葉校長 森教頭 轟事務長 浦井首席 堀江主席 藤板教諭 村松直教諭 新井教諭 金教諭 川口教諭 中瀬教諭 中尾教諭 宮﨑教諭 中西勇教諭 髙教諭 吉井教諭(文責)
傍聴者	
協議資料	令和6年度/令和7年度 学校経営計画及び学校評価
備考	

議題等(次第順)

- 1 校長挨拶
- 2 報告
- ・令和6年度 活動報告について
- ・令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)について
- ・令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)について
- ・学校教育自己診断について
- 3 協議
- ・協議内容「本年度の取組の評価と来年度の改善に向けて」
- 4 その他
- •第2回運営協議会記録
- •連絡等

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (委員)めざす学校像は生徒に共有されているのか
- →(校長)学校説明会などで積極的に発信している。
- (委員)ICT関係の学習として情報リテラシーに関することやインターネットを使うことでの危険性についてどのような学びが提供されているか。
- →(教諭)入学すぐにSNSに対する危険性への講演を行う。人権HRで再度情報リテラシーへの学びを深めた。また、行事の際に、写真などの扱いへの注意喚起を行った。
- →(教諭)探究でのインターネット上の情報リテラシー上での不適切な提出などは減った。一方で、研究倫理に関しては更なる指導が必要。
- (委員)行事等で生徒が選択する幅が広いことは素晴らしいが、全生徒が自分のやりたいことを選ぶことができているのか。
- →(教諭)国際交流や探究等分野の違う中で多くの生徒が取り組んでいる。部活などともやりながら、多くの生徒が積極的に取り組んでいる。また、修学旅行や探究の授業等全員が体験できる場も設けている。 生徒は全体参加の場をきっかけとして各々自分の興味を深めている。
- (委員):活発な生徒によって他の生徒が引っ張られる良い影響がある。また、特に受験指導において、教員の頑張りに応えたいという思いで生徒も日々頑張っている。
- (委員)生徒の荷物の量の多さが気になる。体への悪影響や自転車運転時に危険なのではないか。荷物を減らせる方法を検討できないか。
- →(教頭)電子辞書の利用など荷物の軽量化を進める一方で、一人一台端末で重量があるのも確かである。ロッカーを上手に使うことを 推奨はしている。
- (委員)行事の多さで生徒に様々な機会が提供されるのは良いことだが、教員への負担はどうか。
- →(教諭)手探りの時期と比べると、ノウハウの蓄積で仕事はしやすくなってきている。1・2年生の先生を中心に様々な行事に携わる教員を増やしたい。
- (委員)学校現場ではAIの利用が課題となっているが、どうか。
- →(教諭)利用した方がよい場面で用い、上手に向き合っている。
- (委員)海外研修は全員参加しているわけではないと思われるが、実際の満足度はどうか。
- (教諭)→すべての生徒がホストファミリーでの生徒同士のやり取りやポストカードでのやり取りなど濃淡はあれども関わる機会はある。
- (委員)教員の人権教育の肯定率の低さは何が原因か。
- 、 →(教諭)人権教育への経験値の差が数値の差に出ている。生徒への人権意識が低いわけではないので質問の文言の整理が必要。 (委員)部活動参加率が非常に高い数値となっているが、実際はどうか。
- →(教諭)クラスごとに入っていない生徒は2、3人であり、必ず入るようにという指導はしていない。生徒が自ら積極的に参加している。
- (委員)不登校生徒に対してどのような対応をしているか。
- →(首席)初期対応の迅速化を図っている。また、SCを生徒が受ける機会が増え、できるだけ生徒に寄り添っている。オンライン授業も実施し、単位習得・卒業に前向きになった生徒もいる。

日時	未定
会場	未定